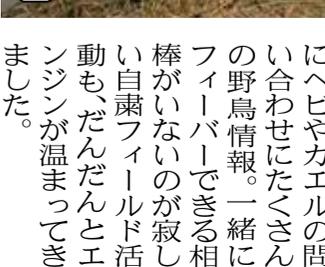
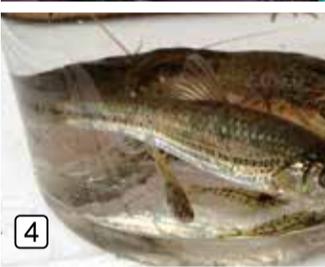


ナチュラリストの

フィールド日記

308

中川宗孝(環境生物研究会・城陽環境パートナーシップ会議)



5月1日付「広報物ガイドブック」植物編を作成された城陽環境パートナーシップ会議の盟友・山村元秀先生は「ホトケノザ」をイチ押し！「スーパードンも生き物博士！」と、急ぎよコロナウィルスに紙面を譲り、再編集では魚やカエル、昆虫より見栄えのする野鳥たちの写真に差し替えて紹介され

て、天然記念物の淡水魚・イタセンパラに珍蛇・シロマガラ、ダルマガエルに背中線又マガエルといった城陽市ゆかりのお宝生物たちの列挙も、やはり野鳥のコアジサシに決まりました。「水辺の生き物観察会」を開催している

来、事実なら日本一の大スッポン発見度目3度目のリベンジを果たせるとあって昨年来足繁く通っています。果たして、お目当てのスッポンとイシガメは確認できま

本一の大スッポン！記念イラストTシャツのご利益で、今年も岐阜大学で研究されている繁殖実験に供与すべく初代川漁師の親父の形見オドリ

の影で当面は活動停止となっています。初めての木津川漁協の総代会では、木津川の魚類リストと関連の資料配布で先輩諸氏にご挨拶した

が、和東川と木津川本流3カ所を計250キもの若鮎を放流するの立ち合いました。(写真⑦)

の駆除は必要不可欠な絶対条件です。こ

動 ◎GWサイレント活動 5月1日付「広報物ガイドブック」植物編を作成された城陽環境パートナーシップ会議の盟友・山村元秀先生は「ホトケノザ」をイチ押し！「スーパードンも生き物博士！」と、急ぎよコロナウィルスに紙面を譲り、再編集では魚やカエル、昆虫より見栄えのする野鳥たちの写真に差し替えて紹介され

カワラバシの俗称と共にふるさとの川から消えつつあるコアジサシの、朗報発信続編にご期待下さい。さて、今年の川開き、今年

の活動早々の5日、初物スッポンをゲットしました。(写真⑤) 富士鷹なすび

木津川で天然記念物の淡水魚・イタセンパラを発見したことが自慢のナチュラリストに、今年に

津川の魚類リストと関連の資料配布で先輩諸氏にご挨拶した

が、和東川と木津川本流3カ所を計250キもの若鮎を放流するの立ち合いました。(写真⑦)

の駆除は必要不可欠な絶対条件です。こ

ドッグフードやイチョウ畑の被害者として、捕獲を装置したところ、アライグマがかり、GWの夜間でもあって引き取り手に困った人からの連絡を受けて駆け付け、井手町猟友会の梅本信昭会長宅に届けました。(写真⑨)

の駆除は必要不可欠な絶対条件です。こ

の駆除は必要不可欠な絶対条件です。こ

の駆除は必要不可欠な絶対条件です。こ

の駆除は必要不可欠な絶対条件です。こ

の駆除は必要不可欠な絶対条件です。こ

の駆除は必要不可欠な絶対条件です。こ

フィールドの新学期、ナチュラリストにとって待ちに待ったベストシーズン到来も、コロナウィルスによる緊急事態宣言でライフワークとする自然観察会などの啓蒙活動の場を失い、繁殖期を迎えた野鳥調査も、環境省・山階鳥類研究所からの自粛要請を受けてケリをはじめとする鳥類標識調査の全面中止で、寂しい限りのゴールデンウィークを迎えました。

バードウォッチングに昆虫・水棲生物の採集会やカエルの観察会など、生き物を慈しむ同好の人たちとの出会いの場であり、子どもたちの輝く瞳と笑顔にフィールド活動のパワーをもらってきたロートルナチュラリストにとって、これら生き甲斐とする年間行事のイベント中止は、天性の楽道家をもコロナ鬱症候群に陥れ、日常生活にも不安を抱く日々を送っています。不要・不急、およそ対極にあったフィールド派ナチュラリストも、マスク着用のうがい・手洗い習慣と共に心掛けています。

調査仲間やジュニアメンバーたちとのフィールド活動もできずストレスも溜まりますが、「独り川開き」で淡水魚とカメ類の調査を始め、スッポン漁を前に初物をゲットしてテンションも上がっています。いよいよ考案した外来生物・ヌートリアのオリジナル捕獲罠の製作に取り組み意欲もわいてきました。

愛鳥週間を前に、せめて紙面で野鳥讃歌のアピールをできる朗報発信の準備中です。「フィールド新学期、超低速発進！」の続編は、GWを迎えて単独・時短のフィールド活動の現状と、話題には事欠かない生き物トピックスです。やっと加速度も増しつつあるナチュラリストの活動報告にお付き合い下さい。

ギなどと共に京都府の条例で「希少野生生物」に指定の絶滅危惧種「コアジサシ」(写真②)山中十郎氏撮影は、昔から「カワラバシ」の名で親しまれ、木津川の河原で子育てをされていました。今や国際希少鳥類となつてしまったコアジサシ、標準化した個体がオーストラリアを往復したりリターン記録が自慢の鳥人ナチュラリスト、そのルーツは親鳥から威嚇の攻撃を受けながら巣や雛鳥を探した少年期の原体験にあります。

今池川です。(写真③) 昨年の観察会での冒頭、井手邦彦・自然部会長から「40年のスッポンを見ました！」との驚愕の挨拶があつて以

本一の大スッポン！記念イラストTシャツのご利益で、今年も岐阜大学で研究されている繁殖実験に供与すべく初代川漁師の親父の形見オドリ

の影で当面は活動停止となっています。初めての木津川漁協の総代会では、木津川の魚類リストと関連の資料配布で先輩諸氏にご挨拶した

が、和東川と木津川本流3カ所を計250キもの若鮎を放流するの立ち合いました。(写真⑦)

の駆除は必要不可欠な絶対条件です。こ